



左京・松ヶ崎の74歳今井さん

京都市左京区の男性(74)が、
わら細工の特技を生かし、毎年地
元の神社にしめ縄を奉納してい
る。近年はしめ縄の作り手が減り、
ボランティアでほぼ一人で担っ
ている。「自分に与えられた使命と
思って続けさせてもらっている」
と話す。

同区松ヶ崎の今井孝司さん。し
め縄作りは1970年ころ、妻の
典子さん(71)の実家の作業を手
伝う形で始めた。経験はなかつた
が、幼いころに父親がわらで米俵
や宝船を作る姿を見て、わらの編
み方を覚えたという。

自宅で飾るために毎年しめ縄や
輪飾りを作っていたところ、7年
前、力強い仕上がりが具合が目にと

特技でしめ縄私の使命

神社奉納 こっこっ

まり、地元の新宮神社から「しめ
縄を作ってほしい」と依頼された。
同時に、近くの岩上神社のしめ縄
作りも始めた。

新宮神社は秋の祭礼、岩上神社
は新年に合わせ、拜殿や神木、社
務所などに飾るしめ縄を奉納して
いる。秋から年末にかけ、自宅の
ガレージや室内で毎日作業してい
る。

今年も年齢もあり、腕や腰の痛
みで作業がきつかったという。若
い人にわら細工の伝統を伝えたい
と、年に1回、小学校で体験教室
を行っている。今井さんは「興味
のある人には喜んで指導させてほ
しい」と話している。

(後藤創平)